

高森暁夫君ご紹介スクリプト

2019/08/31 東京弦月会・懇親会（田村敬一郎・事前準備）

高森暁夫君(Akio Takamori)ご紹介

第76期（高21回）昭和44年卒業

陶芸作家

宮崎県延岡市生まれ。米国シアトルを拠点に活躍した。

陶芸による人物像の作品等が、米欧で広く知られる。

陶芸のほか、版画、ドローイング、ガラス工芸も。

b.1950-2017

Slide 1

私は、高校21回卒の田村敬一郎と申します。事務局に無理をお願いいたしまして、3分ほど時間をいただきました。

私がお話ししたいのは、同期の高森暁夫君のご紹介です。陶芸作家として米国を拠点に活躍しましたが、日本ではほとんど、というより全く知られておりません。とても残念に思っています。私が彼と付き合いがあったのは、大宮高校を卒業して2年間、彼が武蔵野美術大学の短期大学部に在学していた時代でした。彼の紙粘土による習作が3点手元にありますが、その後の高森暁夫を示唆する、とてもユニークで美しい作品です。

では、まず後期の作品から見ていきましょう。（次をお願いします）



A small child runs through Akio Takamori's 2006 sculpture "Young Woman, Girl and Mother and Child" on Sunday at the Whole Foods. (Ken Lambert/The Seattle Times)

<https://www.seattletimes.com/seattle-news/obituaries/cancer-claims-seattle-ceramic-artist-akio-takamori-at-66/>

Slide 2

これは、彼の拠点シアトルの Whole Foods というショッピングセンターの入り口に設置されている作品です。屋外のため、実は陶芸ではなく、アルミ製です。写真でわかるように、とても大きな人物像が3点（合計4人）です。小さな子供たちだけでなく、大人たちにも親しまれています。（次をお願いします）



Akio Takamori's work drew heavily from his Japanese heritage, and from images from art history and culture. He is seen in his studio... (courtesy of Vicky Takamori)

<https://www.seattletimes.com/seattle-news/obituaries/cancer-claims-seattle-ceramic-artist-akio-takamori-at-66/>

Slide 3

高森暁夫君のアトリエ風景です。顔貌は高校時代と変わっておりませんで、大宮同期の方や、期の近い方は、思い出される方もいらっしゃるのではないかと思います。では、高森暁夫の前半期の作品から見ていきましょう。(次をお願いします)



Slide 4

大皿です。アメリカで大学、大学院を修了して、一時日本に戻っていたころ、1979年の作品です。独特の筆遣いと色彩感が見て取れます。(次をお願いします)



Slide 5

これも同じ年の、大皿です。高森暁夫一流のデザインです。(次をお願いします)



Slide 6

これまた、彼の、繊細でしなやかな線がよく表れた作品です。こんな器で、お茶を飲んでみたくありませんか？ あるいはワインを。(次をお願いします)



Slide 7

猫の花瓶です。高森暁夫は、猫や鶏、魚といった動物も、よく題材としていました。(次をお願いします)



Slide 8

いずれもマグカップです。大きめですので、アメリカン・コーヒー用といったところかと思えます。(次をお願いします)



Slide 9

左側はティーポット、右側は一輪挿しの花瓶でしょうか。ティーポットには、後の人物像へつながる造形と筆の描写のさきがけが表れているようです。(次をお願いします)



Slide 10

マガジンラック、または新聞ラックです。表側と裏側からの写真です。60cm以上の高さのあるものです。(次をお願いします)



Slide 11

これもマガジンラックです。奥の馬と手前の牛の間に空間があり、そこにマガジンを置くことができます。高さ約 50cm です。(次をお願いします)



Slide 12

同じものを二つの方向から撮影しています。ギリシャ神話の「レダと白鳥」かと思われま
す。ここではもう、実用的な用途からは完全に離れているようです。(次をお願いします)



facebook (Garth Clark Gallery 1981-2008)

The 1997 exhibition of works by Akio Takamori took the world by storm and surprised everyone as he was making figurative sculptures rather than the envelope works he was known for. The entire body of work was made at the European Work Centrum in den Bosch, Netherlands. I recall Akio being nervous about the change as we were all about "vessels" in those days. Well he got us to change and expand. Thank you, Akio.

https://www.facebook.com/search/top/?q=Garth%20Clark%20Gallery%201981-2008%20Akio%20Takamori&pa=SEARCH_BOX

Slide 13

高森暁夫は、大きく変化し続けた作家です。そして、彼の最大の変化は、1996年に起こりました。この写真は、1996年にオランダで作った作品を、翌1997年にニューヨークで公開した、個展の写真です。大型の人物像です。それまでの高森暁夫は、米語で **vessels** とか **envelope work** と呼ばれる、食器や花瓶、ティーポット、マガジンラック等の、いわゆる容れ物を中心とする作家の一人でした。それが大きく変貌し、センセーションを巻き起こしました。高森暁夫は、米国陶芸界で最も有力なギャラリーであったガース・クラーク画廊で、1983年から2007年まで、毎年のように個展を開いてきましたが、この1997年は、ガース・クラークにとっても、陶芸の世界にとっても、そしてもちろん高森暁夫にとって、大きな転換点となりました。(次をお願いします)



facebook (Garth Clark Gallery 1981-2008)

Our final Akio Takamori exhibition in 2007

https://www.facebook.com/search/top/?q=Garth%20Clark%20Gallery%201981-2008%20Akio%20Takamori&pa=SEARCH_BOX

Slide 14

これは、高森暁夫のガース・クラーク画廊における最後の、2007年の個展です。(次をお願いします)



Slide 15

高森暁夫は、陶芸以外に、版画やドローイング、ガラス工芸の作品もあります。特に版画は、継続的に作り続けました。これは、1996年のリトグラフ（石版画）で、*Western Paradise*と題されています。（次をお願いします）最後のスライドになります。



Seattle artist Akio Takamori with two of his self-portrait sculptures on March 7, 2002. (Greg Gilbert/The Seattle Times)

<https://www.seattletimes.com/seattle-news/obituaries/cancer-claims-seattle-ceramic-artist-akio-takamori-at-66/>

Slide 16

2002年の、アトリエでの写真です。2体のアキオ・スフィンクスに挟まれて、アキオが笑っています。

以上、高森暁夫作品の、さわりを見ていただきました。

私は、高森暁夫は、もっともっと知られるべき作家だと思っていますし、郷土宮崎出身の、胸を張って誇れる作家だと思っています。宮崎県立美術館に、高森暁夫作品専用の一室を持ってしかるべき作家だとも感じています。今日は私が高森暁夫君を紹介させていただきましたが、私は美術のド素人で、美術界の知識も、人脈もありません。高森暁夫を紹介する適任者ではありませんが、だれもやっていないようでしたので、あえて私が紹介させていただきました。日本や宮崎の美術界に詳しい方や、あるいは彼の作品の普及にあたって必要となる写真の著作権等の知的財産権に詳しい方や、その他多くの方々のご協力が必要だと感じております。みなさんのご意見やご感想、そしてご助言をいただければ幸いです。予定の時間を少しオーバーしてしまいました。申し訳ありません。

会場入り口近くに、彼の作品の写真や資料を展示しております。ご興味のある方は、ぜひご覧ください。

ありがとうございました。